

報 告

2015年10月～12月支援分

<バングラデシュ>

●学校校舎建設 10月1日、カバシアのモイシャダンナ中学校に DCEFの資金で建設された学校の竣工式が行われました

●トイレ寄付

- 甲南女子「世界子ども基金クローバー会」様よりカバシア郡の学校へトイレを1基
- 「第43回大田区生活展」様よりカバシア郡の幼稚園へトイレを1基
- 会員有志の方よりカバシア郡の学校へトイレを1基

●机・イス、その他の寄付

- 甲南女子「世界子ども基金クローバー会」様より YURIKOエンゼルスクールへ机とイス30セット、カバシア郡の学校へ机とイス10セット
- 同会よりカバシア郡の学校へ図書120冊、焼却炉一基
- 「第43回大田区生活展」様よりカバシア郡の学校へ図書400冊

<シエラレオネ>

- 11月、宣教クララ修道会のシスター白幡様を通じてシエラレオネへの支援として10万円を寄付

<国内活動>

- 12月、さいたまのJR浦和駅前、大阪のJR天王寺駅前で街頭募金を行いました。多くの方にご協力いただきありがとうございました。

バングラデシュツアーのお知らせ

●4月23日(土)～4月30日(土)



〈スタディーツアー〉
バングラデシュのお正月イベントなど

●6月16日(木)～6月23日(木)



〈スタディーツアー〉
識字教室、職業訓練所卒業式など

●7月28日(木)～8月4日(木)



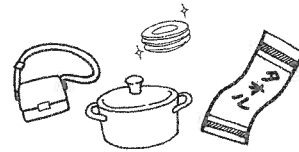
〈ファミリーツアー〉
お子さんやお孫さんと一緒に貴重な体験を
※現地の情勢により、ツアーの日程変更
または中止することがあります。

イベント情報

4/6 春のチャリティバザー

場 所: 本協会ボランティアセンター (伊丹市)

時 間: 10:00～14:00



チャリティバザーにご協力ください

バザーで販売する品物のご提供をお願いしています。食器・なべ類、寝具、タオル、衣料、食料品、石鹸、カバンなどいつでも受付けています。ご近所でしたら引き取りに伺います。事務所までご連絡下さい。

☆取り扱っていないもの☆
大型家具、使用済み食器等

会員募集

本協会の活動は皆さまの会費の他、募金や寄付金、バザーなどのチャリティイベントの収益金によって支えられています。ご協力をお願いいたします。

●正会員

一般会員 年額1口 6,000円
特別会員 年額1口30,000円

●DCEF会員(教育里親)

1ヵ月1口 2,000円

※送金方法は現金書留又は郵便振替
でお送り下さい。

郵便自動払込方法も受付けています。

郵便振替・口座番号
01130-1-59586

※その他、バザー用物資によるご協力もよろしくお願いいたします。

会員数: 一般会員 800名
DCEF会員 942名
(1月1日現在)

お知らせ

●会員総会 3月8日(火)13:30～

会員の方には後日案内をお送りしますので、ご出席下さいますようお願いいたします。

●バングラデシュ支援30周年記念式典の延期

2015年11/28(土)に予定しておりました記念式典は、現地の情勢を考慮し延期致しました。後日、改めて式典を行う予定にしています。

●アイキャンプ中止

毎年12月にエンゼルホーム内の診療所で行われていました日本のNPO法人「POSA」の医師らによる白内障患者の手術支援「アイキャンプ」は、現地の情勢を考慮し昨年は中止致しました。

●Facebook 始めました

ボランティアセンターでの日々の活動や、現地の報告を気軽に見ることができます。「国際エンゼル協会 Facebook」で検索、もしくは当協会ホームページからアクセスして下さい。

2016年行事予定

1月現在

4月	6日(木) 23日(土)～30日(土)	春のチャリティバザー スタディーツアー	本協会ボランティアセンター バングラデシュ
6月	16日(木)～23日(木) 5日(日)	スタディーツアー 楽しいボランティアひろば	バングラデシュ 本協会ボランティアセンター 伊丹市
7月	28日(木)～8月4日(木)	ファミリーツアー	バングラデシュ
9月	3日(土)	チャリティイベント	アイフォニックホール 伊丹市
10月	19日(木)	秋のチャリティバザー	本協会ボランティアセンター 伊丹市

編集後記

秋のチャリティバザー以降、各地でたくさんのバザーやノクシカタ販売が行われました。ボランティアセンターも毎日活気と笑顔にあふれており、慌ただしくも充実した毎日でした。この勢いで今年もボランティアの皆さんの笑顔のパワーを発揮して、バングラデシュ支援31年目を頑張りましょう。

国際エンゼル協会は1982年伊丹市において設立され、「世界に愛を」をスローガンに、発展途上国への理解と協力を通して国際間の友好を深めると共に、すべての人々が共存できる平和な世界の実現に寄与することを目的としています。

発行者



特定非営利活動法人

国際エンゼル協会

〒664-0862 兵庫県伊丹市若菱町6丁目10番地
TEL.072(784)7504 FAX.072(784)4608
Home Page ● <http://www.angel-ngo.gr.jp>
e-mail ● post@angel-ngo.gr.jp

ANGEL NEW

通巻174号
2016.01

謹賀新年



川村百合子前代表とエンゼルホームの子ども達(1991年)

新年明けましておめでとうございます。

お陰さまで昨年バングラデシュ支援30周年を迎えることができました。記念式典は諸般の事情から延期いたしました。こうして30年も続いて着実に成果となって現れていることに心より感謝申し上げます。

エンゼルホームの子ども達、奨学金を受けていた学生達、職業訓練を受けた女性達、それぞれが幸せな人生を送っていることを聞かたびにとっても嬉しく、そして日本の皆さまがバングラデシュの子ども達や女性にかけてくださる優しさ、温かい善意に感謝いっぱいです。

1984年に初めてバングラデシュを訪れた川村百合子前代表は、戦後間もない日本と同じように感じたそうです。そしてこの国の人々に教育を与えてあげれば必ずよくなると信じ、子ども達の教育を活動の柱としてきました。学校に行けなかった女性が職業訓練所で技術を習得して収入を得ることが出来るようになりました。奨学金を受ける学生達は高校・大学・専門学校と次々と道が開かれています。バングラデシュを訪れるたびに発展していく町や人々の活気ある生活を目の当たりにして、今の日本に無いものを感じ頼もしく見えます。

私達の活動は小さなことかもしれませんが、一人ひとりが幸せになることがやがて大きな目標である世界平和につながっていくのではないかと思います。全国からお寄せくださる寄付やバザー用品、またボランティアセンターで毎日賑やかに忙しく作業して下さるボランティアの皆さま、今年もご協力ご支援をくださいますようお願い申し上げます。楽しく実りある一年にしたいと思います。

代表理事 東村 眞理子

特集 エンゼルホームの子ども達が思い出を語る①

言葉の壁を越えた大きな愛を受けて

マハブル ロフマン Md.Mahbubur Rahman



私は1986年8歳の時に国際エンゼル協会のダッカ事務所で生活する事になりました。私達12人は近くの学校に入学し、そして4年後には自然に恵まれた緑豊かなコナバリの広い場所で、大勢で暮らしました。学校から帰ると音楽や絵を習ったり、サッカーをしたりして過ごしました。

エンゼルホームでは「礼儀を正す」「時間を守る」「掃除をする」、また人とコミュニケーションをとる事などを毎日の生活の中で学びました。私はたぶん一番いたずらな子だったと思います。しかし、学校生活や勉強も頑張りました。日本の皆さんが来る度に楽しく交流プログラムをした事を今でも覚えています。雨季になると、近くの湖は水が溢れてきれいでした。そこで私達は泳ぐ事を習いました。エンゼルホームにはたくさんの木があり、果物の美味しい季節には皆で木に登って果物を

採って食べたりしました。その時に木から落ちて手を骨折した事もありました。みんなでボーイスカウトキャンプに行った事、農村の学校に木を植えた事、日本の学生さんがワークキャンプで訪れ一緒に井戸を掘ったりトイレを作ったりした事、学生さんが帰る時に別れを惜しんで皆で泣いた事など、たくさんの思い出に溢れています。

私は2005年に大学院を卒業してから少し働いた後、イギリスに留学して経営の勉強や仕事をしました。今は友人と一緒にイギリスでレストランの経営者として頑張っています。

川村さんはいつも私達と笑顔で話をしてくれました。言葉の壁を越えた愛の心は、私達に親がいない事を忘れさせてくれました。本当にたくさんの愛を下さいました。ありがとうございました。エンゼルホームの事はいつも心に残っています。



1986年当時のマハブル君

エンゼルホームで学んだ人を大切にする心

シムリ アクタ Shemuli Akter



1986年、私が4歳の時に国際エンゼル協会のダッカ事務所で男の子7人、女の子5人の12人で生活する事になりました。まだ幼かったので、その時の事はあまり覚えていません。そして2003年に短大を卒業し、クリニックで働くことになりました。今では結婚し、女の子の母親になりました。

エンゼルホームがコナバリに移ってからは毎日みんなと遊び、毎朝の掃除や庭の手入れ、草刈りをしたり木に登ったり、近くの学校に通ったりと忙しくも楽しい日々でした。歌や踊りを習ったり、絵を描いたり

詩の朗読や劇の練習など、色々な事をしました。私が小さい時、川村さんがよくバングラデシュを訪問され、その度にお菓子やおもちゃを下さいました。一緒に手をつないで歩いたり、私達の歌を聞いて下さったりしました。

エンゼルとの出会いが私の人生を大きく変えてくれました。エンゼルの皆さんには心から感謝しています。一度日本に行った時も、エンゼルの皆さんは本当に親切にして下さいました。エンゼルホームで教わった事はいつまでも忘れません。毎日の生活、仕事、そして人を大事にして頑張っていきたいです。



1986年当時のシムリさん

バングラデシュより新年のご挨拶

バングラデシュ現地責任者 アジズル・バリ

新年あけましておめでとうございます。お正月はいかがお過ごしでしたでしょうか。「初日の出」と言う言葉もありますように、太陽は正月の間も毎日いつもと同じように、何も求めないで私達に明るい光を照らしながら静かに支えています。

1985年より国際エンゼル協会がバングラデシュへの支援活動を開始し、30年が経ちました。この長い間に、バングラデシュの子ども達への教育から女性の自立の道づくり、またその他にも様々な活動を行ってきました。川村百合子前代表を始め、たくさんの日本の方々がエンゼルを通じて太陽にも劣らない力で支えてくれたこの30年。素晴らしい環境で学校に通っている子ども達の姿、将来の夢を持って歩んでいる子ども達の笑顔を見ると、私も皆さまのお陰で素晴らしい事業の

お手伝いをできていることに、心より感謝しています。

エンゼルホームを巣立った子ども達や、奨学金を受けて勉強した子ども達はバングラデシュだけに留まらず、国境を越えて海外でも色々な活動をしています。家族を守る為、人の為、国の為、そして世界の為にその能力を発揮しています。30年前はここまで大きくなるとは思いませんでした。

バングラデシュで活動に関わっている多くのスタッフ達も、エンゼルのお陰で自分の家族を守り、子ども達の未来を創る仕事ができる事ととても嬉しく思っています。バングラデシュより皆さんの健康をお祈りしています。これからもよろしくお願いします。



No.18

エンゼルホームの子ども紹介

アラファト君と
ジハッド君
Arafat Sarder
Zihad Sarder
(13才)

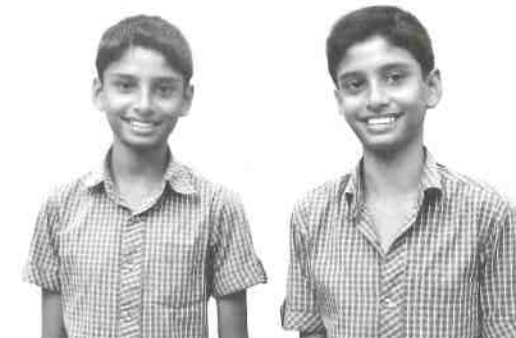


君は読書やお花の手入れが好きです。二人とも他の子ども達と仲良くして、掃除や朝食のお手伝いもよくしています。

アラファト君はお医者さんに、ジハッド君は軍隊に入るのが将来の夢です。これからも仲良く勉強やスポーツをがんばって下さい。

アラファト君とジハッド君は双子の兄弟で、とてもよく似た顔立ちをしています。二人のお父さんは彼らが7歳の時に病気で亡くなってしまいました。その後、お母さんも病気を抱えながら家政婦の仕事をしていましたが経済的に行き詰ってしまい、2014年1月よりエンゼルホームで生活することになりました。

現在、YURIKOエンゼルスクール8年生の二人はスポーツが好きで、学校が終わってエンゼルホームに帰ってくると、皆と一緒によくクリケットをしています。アラファト君の方が活発に体を動かすことが好きで、ジハッド



アラファト君

ジハッド君

バングラデシュ支援30年の歩み

1982年

国際エンゼル協会発足

「LOVE OVER THE WORLD ～世界に愛を」
をスローガンに掲げ、兵庫県伊丹市に
おいて活動始める



1985年

バングラデシュへの
支援開始
マハムニ母子寮
新校舎建設協力

1986年

ダッカに孤児院を開設

親のいない子ども達や貧しい家庭の子ども達を
共同生活の中で養育し、教育の機会を与えな
がら社会に役立つ人材を育成していく



1987年

バングラデシュ
社会福祉省より
外国援助団体の
認可を受ける

1988年

ガジプール県
コナバリ村に
新事務所開設

1989年

発展途上国教育基金「DCEF」
設立(教育里親制度開始)

発展途上国の経済的に恵まれ
ない学生達に奨学金を渡した
り、学校校舎などを建設し設
備の充実を行う

1990年

スタディツアー開始

日本国内の活動が現地ではどの
ように活かされているかを見るこ
とができ、現地の人との触れあ
いの中でその国の文化や生活習
慣を肌で感じる事ができる

1990年

コナバリ村に児童養護施設
「エンゼルホーム」をオープン



1991年

ワークキャンプ開始

日本の若者を対象に、現
地の人と交流しながら井
戸掘りやトイレ作りなど
の支援活動を行う

1993年

職業訓練センター(TTC)開設

社会的地位が低く就労機会が少
ない農村女性が手に職をつける
ため、縫製技術やバングラデ
シュの伝統的な刺しゅう「ノク
シカタ」などの技術研修を行う

1994年

農業訓練センター(ATC)開設



1995年

識字教室(WEP)開設

教育を受ける機会がなかった
農村女性に、文字の読み書き
や計算、その他生活に必要な
基礎知識を教える

2006年

「YURIKOエンゼルスクール」
新校舎竣工

2005年

「YURIKOエンゼルスクール」
開校

川村百合子前代表の「バングラデシュ
の未来を担う優れた人材を養成した
い」という想いで創られた、本協会が
独自で運営するプライベートスクール



1999年

診療所(HCC)を
建設し、
医療活動開始

2003年

和太鼓「はぐるま」の
親善公演開催

日本の文化を伝えるため、
和太鼓の公演を行う



2009年

「YURIKOエンゼルスクール」
増築校舎竣工

2011年

寺子屋風教室
「スリジョニ」開設

家庭の事情で学校に通え
ない子ども達に本協会現
地スタッフが勉強を教
え、学ぶ機会を作る

2015年

バングラデシュ
支援30周年を
迎える

1985年にバングラデシュへの支援を始め、今年で31年目を迎える事ができました。当初はダッカの小さな事務所で12人の子ども達を預かり共同生活を始めましたが、今ではその支援の輪もプライベートスクールを運営するまで大きく育ちました。ここで改めて、バングラデシュでの私達の活動を振り返ってみました。



～秋のチャリティバザーを終えて～

10月21日に行われました第64回秋のチャリティバザーは、1,200人近いお客様と300人以上のボランティアの方でにぎわいました。春と秋に行われるボランティアセンターでのチャリティバザーは回を重ねるごとに規模も大きくなり、今回も二カ月以上前から準備を行いました。その間には多くの方々にご協力いただき、またご近所の方を始め全国各地からバザーに役立てて下さいとたくさんの品物の寄付が届きました。この皆様の心のこもった品物を喜んで買ってくださいお客様姿を見ると、私達ボランティアも同じように嬉しくなれます。

「バングラデシュ支援30年 あなたも私も輝いて」このキャッチフレーズのもと、昨年は全国各地でたくさんのチャリティバザーを行い、多くのお客様に喜んでいただき、私達も喜ばせていただきました。この喜びが支援という形でバングラデシュに届き、現地の子ども達や女性達に喜んでもらえる事を嬉しく思います。この喜びの連鎖がこれからもずっと続きますよう、今年もよろしく願いいたします。

春のチャリティバザー
4月6日(水)

次回は4/6(水)です



バザーに向けて意気込むボランティアの皆さん



オープン前に並ぶたくさんのお客様



にぎわう売り場

DCFだより 元奨学生からのたより

みなさん、こんにちは。私はシャジャラル・コンドカです。1991年の中学生からの5年間と、2001年大学に入学した後の4年間、国際エンゼル協会の奨学金をいただいていた。大学では紡績(繊維)工学の勉強をし、2010年からはダッカ工科大学で教壇に立ち学生達を教えていました。

私は長い間、国際エンゼル協会の教育支援を受けながら勉強していた為、毎年奨学金を受け取るためコナバリ事務所へ行った時に国際エンゼル協会のこと、日本の皆さんのことを知る機会がありました。そして、いつしか日本で勉強したいという夢を持ち始め、昨年ついにその夢が叶いました。文部科学省の奨学金をいただける事となり、10月1日から九州大学で環境工学科の博士課程を勉強しています。

私の両親は私が幼い時に亡くなりました。日本のお母さん方が親のいない私も含めて、バングラデシュのたくさんの学生達に教育支援をして下さっていることに大変感謝しています。ぜひ日本で皆さんにお会いできることを楽しみにしています。



シャジャラル・コンドカ
ダッカ工科大学助教授
九州大学環境工学科

DCF(ディセフ)とは…
[Developing Country Educational Fund]

経済的に恵まれない発展途上国の子ども達に教育援助を行う里親制度。奨学資金の供与や学校校舎の建設・設備の充実、農村女性を対象にした識字教室等を行っています。また、バングラデシュ以外に、フィリピン、スリランカなどの子ども達にも支援しています。

連載コラム1

仲島正教の優しい風
～ Loving-wind ～

「優しいという字の意味は？」



▲教育サポーター 仲島正教

4月、私は5年生にこんな授業をします。

「優しいの『優』の書き順は？」「まずは『にんべん』から書くよ」

「違う。まずは『憂』だ」(黒板に『憂』と書く)

「えっ! センセー嘘ついたらあかん」

「これホンマやで」と子どもたちに嘘をついて授業を進めていきます。

(子どもたちには終わってから「ごめんなさい」と謝ります)

「『憂い』の意味は、心の中が辛いな、悲しいな、っていうことだけど、みんなはそんな気持ちになったことはありますか？」

「私、昨日テストが悪くてお母さんに怒られてとっても悲しかった」

「この前、僕一人だけ跳び箱が跳べなくてすごく辛かった」

「僕はこの頃、ドッジボールに誘ってもらえなくて一人になっちゃう」

「そうかあ、みんないろいろ辛い時があったんだな。そんな時に、誰かがそばに来て(黒板の『憂』の横に『人』を書き入れる)『どうしたの?一緒に遊ぼう』と言われたら、どう？」

「すごくうれしい。ホッとする」

「そうだろ、それを『優しい』っていうんだよ『優しい』という字は『憂い』の横に『人』が寄り添うと書くんだよ。先生はね、そんな『優しい仲間』がたくさんいるクラスを作りたいと思っているんだ」

そんな私の話のあとに、ある女の子がこんな発言をしてくれました。

「センセー、私には『憂』は『百と愛』に見えるよ。憂いのある人には百の愛をあげたらいいんじゃないかな。そうすればきっとその人は元気になるよ」

☆ ☆ ☆

今年度から国際エンゼル協会の仲間入りをしました元小学校教師の仲島正教です。

私もみなさんのような「優しい人」になりたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

ノグシカタ製品に新しく「ティッシュボックス」が仲間入り



ティッシュの箱がすっぽり入るティッシュボックスが出来ました。カラフルで温かみのある刺しゅうで、お洒落なインテリアに変身!象や孔雀の刺しゅうが可愛さを引きだてます。

【図柄の意味 象: 神の使い 孔雀: 人間愛】

●サイズ: 12cm×25cm×6.5cm 1,500円(赤・黒・緑)